【国語科】教科提案

未来に生きて働く探究力と省察性の育成

国語科の本質

国語科は，言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，言葉の働きを適切に理解し，それらを活用表現する教科である。国語科は，様々な事象や対象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的とするのではなく，様々な事象をどのように言葉で捉えて理解し，どのように言葉で表現するか，という言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象とするという特質を有している。したがって，言葉に着目して言葉の働きを捉えるという国語科固有の視点を踏まえ，理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを深め広げることが，国語科で育成したい力である。

国語科の目標及び育みたい探究力と省察性

国語科の目標	国語で理解し表現することを通して，①創造的・論理的思考の側面，②感性・情緒の側面，③日常生活における人との関わりの側面から言葉に対する見方・考え方を働かせ，言語感覚を養い，自分の思いや考えを形成し深める資質・能力を育成する。
育みたい探究力	創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い，日常生活における人との関わりの中で，国語を正確に理解したり適切に表現したりするとともに，新たな考えを創造する力。
育みたい省察性	テキストに書かれている言葉や自他の発言，または問題解決の過程や結果をふり返りながら，学級や個人の問題解決について調整したり，改善したりしながら問題解決の質を高める資質・能力。

国語科における探究のプロセスをとおした学びのイメージ（単元）

問題との出合い

テキスト、題材、言語活動などの子どもにとって切実感のある問題設定

問題解決①

※創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養う

○情報収集
○整理・分析
○対話

問題解決②

※国語を正確に理解したり適切に表現したりする

○言語活動
（まとめ、表現、発信）

振り返る

※学びを意味づけたり、学んだことを自己の生活や行動につなげたりする

○調整
○改善

○調整　　○改善

探究力と省察性を育む指導

子どもの探究の質を高めるため、子どもたちの省察の質を向上させる指導を行う。その際、子どもの省察を「主体・協働・活用」の姿を踏まえた省察のルーブリックで評価する。

そのために、授業づくりの「しかけ」（直接的な働きかけ・間接的な働きかけ）で、子どもの省察の向上を促していく。直接的な働きかけとしては、学習問題（課題）・発問・指示・板書などが挙げられる。また、間接的な働きかけとしては、掲示物・単元計画などが挙げられる。

言語活動を通して、言葉の意味、働き、使い方などに着目し、対象と言葉、言葉と言葉の関係を捉えたり、問い直したりすることで、言葉への自覚を高め問題解決をさせる。

研究の評価

研究内容で取り組んだ授業実践の中での子どもの言葉をもとに，研究の成果と課題を明らかにしていく。その際に授業での子どもの言葉やノートの記述などの子どもの表現物を用いて研究の質的評価を行う。